

個が生きる体験活動

ふるさと蔵王に豊かに育つ生徒を求めて

宮城県刈田郡蔵王町立宮中学校

1. ねらい

今、学校教育では、一人一人のよさや可能性を生かすことを根底に据えた、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力を育成することが重要視されている。

さらに、生涯学習の視点に立ち、自己を見つめながら人間としての在り方、生き方を考える力、すなわち、心豊かでたくましく生きる力を育成することが求められている。

この実現に向けて、ふるさと蔵王についての自然、歴史、文化、産業などを知る体験活動を教育課程の中に位置づけ、一人一人の生徒の持つ個性や可能性を生かす活動を展開し、きめ細かく指導・支援することで、豊かに学ぶ生徒を育てたいと考えている。

2. 教育課程上の位置づけ

- (1) 蔵王の自然・歴史・文化・産業などを学ぶための体験活動を実施する。
- (2) 学級活動や道徳・教科学習等を関連させ、事前・事後の指導を充実し、一貫性を持って計画的に指導を行う。

3. 研究の全体構想



4. 指導計画

1年生

時間	ねらい	主な体験活動	活動形態	活動場所	個への働きかけ	支援		
						保護者	学校支援委員会	推進地域協議会
2泊3日 2日	豊かな自然の中での体験を通し、自然やふるさとを大切にすることを最後までやりとげようとする態度を育てる	・蔵王登山 ・スキー教室	個人及びグループ	・石子岳、蔵王少年自然の家 ・えぼしスキー場	・自然の雄大さやきびしさに触れそこから得たものを普段の生活にも役立てるように声がけする ・個や集団の目的が達成できるように最後まで努力させる		(Yさん) 講話「蔵王の植物について」 (Tさん) スキー教室と講話	(蔵王少年自然の家所長) 講話「蔵王について」
4	地域の身近な問題・課題を見つけ、校外での調査活動を通し、ふるさとについてより深く追求しようとする態度を養う	・蔵王町内の関係機関の訪問(まとめ、文化祭で発表)	グループ	・町役場 ・ことりハウスなど	・あいさつや対応のしかた(言葉づかい)などに注意するように指導する(国語科と連携) ・疑問点を解決できるように、しっかりと話を聞くように指導する			(ことりハウス所長)講話 農協・商工会より情報提供

2年生

時間	ねらい	主な体験活動	活動形態	活動場所	個への働きかけ	支援		
						保護者	学校支援委員会	推進地域協議会
6	ふるさとの豊かな自然の美しさを保つとするとともに役に立つ労働の喜びを味わわせる	・学区内のゴミ拾い(親子活動、終了後昼食会)	部活ごと	部活ごと	・学区内をきれいにする喜びを体感させる ・自分の意志で行動することの大切さを認識させる	保護者も一緒にボランティア参加		
16	ふるさとして働く人々とともに働き、労働観を育てる	・蔵王町内の事業所において職場体験(2日間)	個人	蔵王町内30事業所	・職場の選択、職場との連絡、あいさつ等について個別に指導する(道徳と連携)		(Aさん) 果樹栽培の実技指導	町の商工会より事業所への働きかけ
30	民俗芸能を学ぶ体験を通して、ふるさとを思う心を育てる	・太鼓講座(文化祭で発表)	クラスごと	学校	・芸を磨くため真剣に取り組む若者の姿に触れさせる ・民俗芸能の心は個の願いを集団的に表現するところにあることをとらえさせる(音楽科と連携)			

3年生

時間	ねらい	主な体験活動	活動形態	活動場所	個への働きかけ	支援		
						保護者	学校支援委員会	推進地域協議会
4	ふるさと蔵王に豊かに学び育つ生徒の育成(卒業に向けて総括的にふるさと体験活動を行う)	蔵王町宮地区のシンボル青麻山登山(ふるさと親子清掃登山)	学年全体保護者	青麻山	・ふるさとの山を掃除することを実践させる ・進路決定への決意を新たにさせる ・親子で活動することにより、保護者・地域の支援を受けていることを意識させる	・保護者も一緒に登山、清掃活動 ・保護者の一部がカレライスを準備する	(Nさん) 登山の道案内をお願いする	
1	地域人材活用により地域のすばらしさ、自己の夢・希望を持つことの大切さを教える	蔵王町の現状と未来についての講話	学年全体	学校	・ふるさとの特徴・長所を認識させる ・個々の将来の夢を自覚させる		(Tさん) 講話「蔵王町の未来と現状について」	

* 来年度は、地域の農園関係者から支援を得て、農業体験を活動の中に取り入れたいと考えている。

* " 体験活動の中に、児童館での子どもの世話など、生徒自身が中心になって指導したり、お世話をする活動を取り入れていきたい。

5. 実践例

「第2学年 職場体験」

目的

- 1) ふるさととその周辺の事業所，その他の労働の現場で汗して働く人々の姿に触れることで，働くことの意味を考える機会とするとともに，ふるさとの担い手としての自覚を育てる。
- 2) 蔵王町の様々な事業所を実際に訪問し，ともに働くことで，働くことの意味を体感させる。

期日 平成14年7月4日（木），5日（金）

内容

- 1) 2日間，蔵王町を中心とした事業所等で，労働する体験を味わう。
- 2) 事業所は，蔵王町の基幹産業である農業，観光業を中心に，汗を流して働くことのできる事業所を，30箇所程度，願います。
- 3) 生徒は，その中から選択するが，充実した活動を行うために各事業所には，2名程度とする。

指導日程

	生徒の活動 (学活・総合的学習の時間の内容)	教師の動き
5/8	オリエンテーション	事業所への依頼
5/15	働くことの意味	
5/22	[職業についての学習]どんな仕事をしているのか，蔵王町の産業について調査 (全体での学習) 蔵王町民の収入から・どの産業が盛んか 各種農業について・稲作，酪農，果樹，園芸，造園，養鶏，肉牛，野菜・その経営内容 観光業について・ホテル・旅館・ペンション，スキー場，タクシー，土産物屋・職場内の労働の分担 商業，工業，その他の産業について・スーパー等 公務労働について・福祉，医療，役場，ゴミ収集等・各事業所の事業内容	蔵王町の産業についての資料準備
5/29	同上・職業についての学習 (個別・興味別での学習)	
6/5	実習先選び	
6/12	実習先についての事前調査 事業内容，さらに調査すること	各事業所事前訪問
6/19	実習先への依頼状，自己紹介(履歴書)作成	・打ち合わせ 各事業所訪問
6/26	実習の心構え(礼儀等)	
7/4,5	実習(各自，現地集合)	
7/6	実習体験まとめ 調査してきたこと，体験しての感想等	各事業所への御礼状作成
	事業所へのお礼状作成	

体験先

旅館・ペンション等	5	事業所
工場等	5	"
老人ホーム等	3	"
スーパー等	3	"
工務店等	3	"
病院	2	"
酪農センター	2	"
自動車整備工場	2	"
保育園	2	"
草花栽培場(ハーブ園)	2	"
果樹園・養鶏場	2	"



6. 評価

(1) 生徒の自己評価

	よくできた	できた	あまりできなかつた	できなかった
職場の方々のお話や指示をきちんと聞くことができましたか	37%	61%	1%	1%
積極的に仕事をすることができましたか	31%	51%	11%	7%
あいさつや返事・応答がしっかりできましたか	24%	61%	12%	3%
今回の体験から職場や労働について考えを深めることができましたか	35%	49%	10%	6%

(2) 生徒の感想

- ・病院での職場体験では、人を助けることはすごく大変だと思った。
- ・職場で人に話しかけられたり、笑ってくれたりするとうれしかった。
- ・旅館の裏ではあんなに忙しく仕事をしているのでびっくりした。
- ・ごみリサイクルの大切さ、ごみ分別の大切さがわかりました。
- ・大人とはほぼ同じ時間働くことは大変なことだとわかりました。
- ・スリッパ作りにあんなに手間がかかるとは思いませんでした。
- ・園芸の仕事を体験して、大変さと楽しさがわかりました。

(3) 親の感想

- ・日ごろ学校のことなど話したこともなかった子どもが目を輝かせて、職場でのことをいろいろと話してくれました。

(4) 考察

- ・生徒の評価「よくできた、できた」を合わせると全項目で80%を超えている。満足感・成就感が感じられる。
- ・身近であった職場でも、実体験することによって、労働の大変さ・重要性を知った。
- ・地域社会とのふれあい、働く大人とのふれあいにより喜びと自信を持った様子が見られる。
- ・将来の夢であった職場を体験することにより、より具体的な目標を持つことができたようだ。

7. 外部からの学校支援推進の取り組み

支援組織	メンバー	支援内容
学校支援委員会	・外部の方 ・PTA関係者など	・活動についての情報提供 ・体験活動への協力・支援
推進地域協議会	・関係行政機関（蔵王少年自然の家所長など） ・団体関係者（子ども会育成会、商工会など）	・体験活動実施上の課題についてアドバイスなど ・体験活動の指導・講師

8. 活動の成果と今度の課題

(1) 成果

- ・ふるさと蔵王を知る体験活動を取り入れたことにより、生徒のふるさとに対する興味・関心や、地域への愛着が高まってきた。
- ・体験活動の中に親子一緒に活動する場を設定したことで、親子のふれあい、保護者と学校とのつながりを深めることができた。
- ・地域人材の活用により、生徒たちの集中して聞き入る姿・地域の中での役割を果たそうとする積極的な姿勢など、ふだんとは違った子どもたちの生き生きとした様子・反応を見ることができた。
- ・生徒の将来の生き方を考える姿勢や態度を育てることができた。

(2) 課題

- ・活動計画作成にあたっては、活動の「ねらい・内容」をしっかりとらえて企画するようにする。
- ・活動をさらに発展充実させていくために、実施後のそれぞれの体験活動についての反省点・見直しを来年度の活動に生かしていくようにしたい。
- ・今年度は、ふるさと蔵王を知る体験活動にとどまった感じがする。来年度は、ふるさと蔵王をさらによく見つけ、自分の生き方を考える生徒を育てるための活動を工夫していきたい。
- ・体験活動を継続していくために創意工夫をし、地域から愛され、信頼され、支持される学校を目指していきたい。
- ・今年度は、地域において生徒が教えていただく形の活動が主だったが、今後、生徒がこれまで培ってきた自分の知識や体験を何らかの形で地域に還元するような活動も進めていきたい。